

## 救急搬送対応マニュアル

### 《医療機関へ運ぶような怪我・状況の場合》

- ① 怪我の手当てをする。
  - ・ 本人および周囲の児童を落ち着かせる。
  - ・ 安全な場所で本人に楽な体位をとらせ、傷口を見せない。
  - ・ 不安な本人へ声を掛ける
  - ・ 傷のまわりについて血液や汚れをできるだけふき取る。
- ② 本人や周囲の方から正確な事故状況を聞き取る。
- ③ 皮膚・肉片・歯片などが現場に残っている場合は、医療機関に持参する。
  - ・ 皮膚・肉片は、汚れを取り、清潔なガーゼなどに包み、氷水で冷やす。
  - ・ 歯は生理食塩水か牛乳につけて医療機関に持参する。
  - ・ 頭や腹部を強打した時は、なるべく動かさないように安全な場所に運ぶ。
- ④ 応急処置後帰宅する場合は家庭へ連絡をし、保護者に病院へ連れて行ってもらう。  
(コーチが連れて行く場合、後から保護者に来ていただけるように依頼し、保険証とお金を持参していただく。)

### 《救急車の要請の基準》

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| ① 意識喪失・痙攣の持続するもの | ② ショック状態の持続するもの |
| ③ 激痛の持続するもの      | ④ 多量の出血を伴うもの    |
| ⑤ 骨の変形を起こしたもの    | ⑥ 大きな開放傷をもつもの   |
| ⑦ 広範囲の火傷をうけたもの   | ⑧ アナフィラキシー      |
| ⑨ その他判断に迷った場合    |                 |

### 《救急車添乗順番》

- (1)ご両親
  - (2)2名以上担当学年コーチがいる場合は担当学年コーチ
  - (3)他学年のコーチで2名以上いる場合は他学年のコーチ
  - (4)コーチで対応不可の場合保護者
- ※大会、合宿責任者は会場に残るようにする。

### 《家庭への連絡》

原則として担当コーチが連絡を取り、傷病の状況、傷病者の状態を説明し、搬送先の医療機関名、場所、電話番号などを連絡する。保険証、診察費持参の上、医療機関まで来ていただく。スポーツ安全保健の取り扱いについても説明する。